



思いやりと生きる力

童心会だより 1月



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

わたしを きゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

【ひとりで できる ひとりで できた ひとりで 生きる】
～今から ここから 自分から～

私たち(社福)童心会の年頭所感は“well-being幸せになろうね！幸せになろうよ！”になりました。
私たちの掛替えのない仲間、「保育者仲間、子どもたち、保護者の皆さまや子育て仲間たち、
そして私たちを見守ってくださる地域の方々」すべての人たちの“well-being”を
祈り願う一年にしたいと思ったからです。
私たちはすべての人たちがいつも“自分まん中”にしながら、
自分自身の人間性を高めあう、生き方を求めあう、
そのような訓えを私たちの信条(OUR CREDO)としてきました。

2023年(令和5年)に鳴物入りで始まった“子ども家庭庁”は“こどもまん中”主義を謳い、
次には「はじめの100ヶ月の育ちのビジョン」を唱えはじめました。
胎生期から就学1年までの就学前、そして接続期の大切さを伝えはじめたのです。
ご存知のように私たち(社福)、童心会の人間教育の基盤は、
「五感を刺激する 0歳からの人間教育」にはじまります。
そして、その実践・実行機能を通して学び続け教えられたのがServe & Return(やりとり、受けこたえ)でした。
私たちは胎生期の感情(feeling)や情動(emotion)の世界は、まだ未知の世界のものでしたが、
新生児からのこの二つは、“ヒトの成り立ち期の歩みのはじめ”に欠かせないServe & Returnは
人づくりの要であることがわかっていました。

その“自分を創る.人を創る”要とは、いつもお話していることなのですが、
私たちがヒトとして生命を受けられた時から与えられた感情(喜怒哀楽)や情動(恐れ、いらだち、不安)
に対して、どのような細やかにして適切な応答関係のやりとりを受けてきたのか、
またどのような養育環境の中で育ってきたのか、が問われているのです。

- 1) 応答受容 (いつでもどこでも 速やかな受けこたえ)
- 2) 応答不全 (多忙な様子をしながら不完全な受けこたえ)
- 3) 応答拒否 (要求希望など受け答えせず、はねつけること)
- 4) 応答無視 (存在や価値を認めず、受けこたえしないこと)



笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番
遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番



E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL http://doushinkai.jp

社会福祉法人 童心会

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲



また、私たち(社福)童心会の“人間学と人間科学に基づく人間教育”とは、長い長い歴史の中で培ってきた
経験・体験を通して身に付けられた教えであり、
”人創りには愛された育ち、だきしめ言葉が大切である”という先人からの遺訓だったのです。
そして、それを次のような言葉で伝えあってきました。

- 1)胎生期のおだやかな生活を思いやる
うるおい やすらぎ 思いやり
- 2)ヒトの成り立ち期の歩みのはじめ (ひとりでできる)
ふれあい 見まもり 思いやり
- 3)人間として“二足歩行”を獲得し、意欲的に生きる
いたわり はげまし 思いやり (ひとりでできた)
- 4)生涯学習・生涯教育を目指して (一日一生を生きる)
ほめて はげまし 育ちあう

改めて私たちは1995年京都大学に導入されたfMRI(磁気共鳴機能画像法)によって脳科学が著しく進化したことを思い出します。
そしてそれを私たちは“人間科学に基づく人間教育”に取り入れ、体内ホルモンを分泌させる新しい技法を取り入れました。
それは私たち(社福) 童心会が実践してきた人間学の訓えに基づく技法でもあり、
人間性を高める人間教育の本質でもありました。

〔主な脳内ホルモンの活性化を図る〕

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1)愛情ホルモン オキシトシン | ○ 先生のだきしめ言葉はオキシトシン |
| 2)幸せホルモン セロトニン | ○ ふれあい見まもり思いやり(朝陽を浴びて セロトニン) |
| 3)睡眠ホルモン メラトニン | ○ たくさん遊んで メラトニン |
| 4)やる気ホルモン ドーパミン | ○ やる気・げん気・ほん気が生まれた運動会 |
| 5)チャレンジ(挑戦)ホルモン アドレナリン | ○ まだ まだ いける 大丈夫!(手賀沼10kmウォーク) |

私は冒頭に、私たち(社福) 童心会の今年の年頭所感
”well-being幸せになろうね! 幸せになろうよ!”と宣言しました。
私たちの掛替えのないすべての人たちの“well-being”を祈り願う一年にしたいと思ったからです。
しかし、それを簡単に手に入れることはできません。
その宝物を手に入れる方法をようやく知ることができ、皆さまにお伝えすることができるようになりました。

〔おわりのはじめ〕

～いまから・ここから・自分から～

1. 人 格 (personality)の核は どのように形成されたのか?
2. 人間性 (Human Nature)の質は どのように養い育てられたのか?
3. 人生観 (lifestyle)性格の基盤は どのようにして創られてきたのか?
4. 主体性 (identity)自分らしさの成り立ちは どのような歩みをしてきたのか?

最近の科学的エビデンスによると、10歳頃までにこの”人創り”の四つの基盤は作られるのだそうです。
そこでこの四つの基盤は“愛された育ち、だきしめ言葉”の前にあった“ふれあい 見まもり 思いやり”
という人間学に基づく「思いやりと生きる力」という訓えの中にあつたことを思い出しました。
それは生まれたばかりの新生児の時代から、そのヒトの欲求する感情や情動に対する的確な応答行為であります。
私たち(社福) 童心会の保育者仲間たちは、それらのすべてを
nonverbal communication(非言語コミュニケーション)として
serve & return(やりとり、受けこたえ)をしながら大切に育み続けてきたのです。
そして、それらのすべてが(社福)童心会の人間教育の理念(哲学)につながっていたのです。

人間教育の理念(philosophy)

〔自分を作る、人を作る〕

～ヒトとして 如何に生きるべきか～

今年もまた 心新たに“迎春”新春をお迎えすることができました。
齢を重ねる度毎に“心新たに”という言葉の余韻が特別なものとして心に残っています。
「日に新たに 日々に新たに」(四書五経)
今年もまた“一日一生”と念じながら、すべての仲間たちの“well-being”幸せになろうね! 幸せになろうよ!
を祈り願いながら、幸せの種を拾い集め育み続けていくつもりです。
今年もまた すべての皆さまの幸せを祈り念じて参ります。
どうぞいつまでもお幸せに!!

令和7年 1月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲